ＥＳの樹

私たちは聴くことを大切にします。ESの文字を左右対称に合わせることにより対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い聴くことを表現しています。

No. ２０　　2012年１０月　発行

もくじ

・第１０回ＥＳ総会報告　ｐ．２～３
・各事業部より　ｐ．４～８
・映画鑑賞＆おしらせ　ｐ．９～１０
・CAP 活動報告＆助成金インフォメーション　ｐ．１１
・事務局からのインフォメーション　裏表紙

第 10 回　ES 総会あいさつ

こんにちは

特定非営利活動法人（ＮＰＯ）法人えんぱわめんと堺/ＥＳの活動も１９９７年の市民活動からスタートし 15 年、２００２年には NPO 法人として設立して今年で、１０年を迎えることができました。改めて会員の皆さまには、活動に関してのご理解とご協力、ご支援いただいていること心よりお礼申し上げます。

実は、昨日改めて１０年という年月を振り返り、一人じわっと感情が込み上げてきていました。私はこの場に 10 回立ち、毎年のように最初の挨拶を発しています。10 年前のここでのあいさつを覚えている人はいないと思うのですが、第一回目には「この ES のオーナーシップは皆さまであり、コミュニティである・・」とあいさつをしています。継続は力なりと言いますが、まさしく皆さまやコミュニティの力だと確信します。ただ、私自身、10 年前の自分と今とを思うと、見えてくる子どもと社会、関わっていく子どもと社会がどんどん大きく広くなってきています。見えてくるものが大きくなるとなかなか完全にはいかず、関わってくることが広くなると完ぺきにはこなせません。

今朝、これまでの活動の恩師でもある人からいただいた本に記されている言葉が目にとまりました。**「不完全でいい、でもいい加減ではない、これが私の精一杯だ」と言うのが一番素晴らしい生き方です。と**

NPO 法人えんぱわめんと堺、10 年を振り返ると、

いつも精一杯でした。今後も、まだまだ不完全ではありますが、いい加減でなく、精一杯やっていきたいと思いますので、この１０年というベースから進んでいきたいと思います。これからも皆さまのご協力ご支援よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、第１０回総会のあいさつとさせていただきます。

北野　真由美

総会イベント

ＥＳの理事を引き受けていただいている、きただ女性クリニック院長の北田衣代さんを囲んで、メンバーを中心に思春期の性について、色々とお話を伺いました。
日頃ワークショップを届けている中で、性について関心を持ちだしている子、興味の裏返しで、からかいや、ふざけのネタにしている子たちに出会うことがよくあります。そうしたときにとる私たちの対応、言葉がけへのアドバイスや情報もたくさんいただきました。お茶と軽食、お菓子をいただきながら、なごやかな時間を過ごしました。

障がいのある子どもへのCAPプログラム

ぜひ、知ってください！ＣＡＰにはＳＮＰ（障がいのある子どもへのプログラム）が存在していることを！

〇障がいのある子どもたちは社会から隔離されているから、施設や家にいるから安全なのか？

事実はＮＯです。身体的、性的虐待も、その被害者がおとなであっても、子どもであっても、多くの場合が信頼されている顔見知りにより行われているというのが事実です。

〇障がい者は暴力被害について、本当のことを言っているかどうか信用できない？

事実はＮＯです。多くの暴力が明るみに出ないままになっている。被害者は、自分が責められたり、加害者からさらなる暴力を受けたりすることを恐れて、人に話さないことがある。また、性的虐待に関しても、知識やそれをどう伝えるかという情報が足りないため、報告しても信じてもらえないことがあるというのが事実です。

このような思い込みは障がいを持つ人だけではなく、社会的弱者と言われる子どもにも起こることですが、「障害」というレッテルがますます脆弱さを助長するのです。

なぜならば、障がいのある子どもたちは障がいのない子どもたちよりさらに、

〇無力で無防備だと見なされている。

〇いついかなる時も、誰に対してもいい子でいるように教えられている。

〇生活のあらゆる面で、他人の助けを必要とする。

〇実年齢に関係なく、非常に幼い子どものように扱われることが多い。

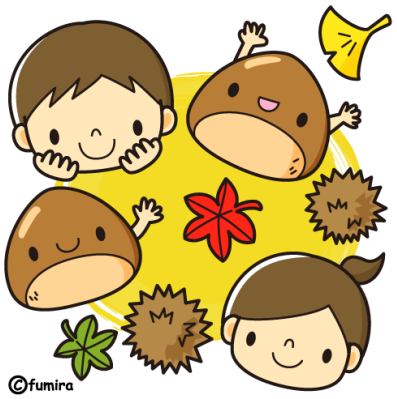
以上のようなことを生まれてから教えられたり、繰り返されたりしたら、どうなるのでしょうか・・・

☆自己肯定感が育ちにくい。

☆自信がもてない。

☆失敗体験が多くなる。

☆境界線が育まれにくい。



その結果、圧倒的な力の不均衡により暴力を受けやすくなるのです。
ＳＮＰでは、障がいのある子どもがどうやって自分の身を守っていけるのか、できないことではなくできることに注目し、子どもが本来持っている力を引き出す、「エンパワメント」のかかわりの中で、自尊感情の育みを大切にしたプログラムを参加型学習（ワークショップ）でさまざまな工夫をこらしながら、子どもたちへ伝えていきます。教職員の方々との協力関係の中でしか実施できない、地域と一体化したプログラムなのです。

情報社会の中で、世界は感覚的には狭くなりました。価値観も多様です。しかし、偏見や差別意識は私たちの日常の中に多く存在します。障がいに関する研究も進み、捉え方や接し方にも変化が見られてきつつあります。
その根底には、一人ひとりは唯一無二のかけがえのない存在という人権意識があることを心の中に深く刻んでおきたいものです。

長岡　幸子

オレンジりぼん

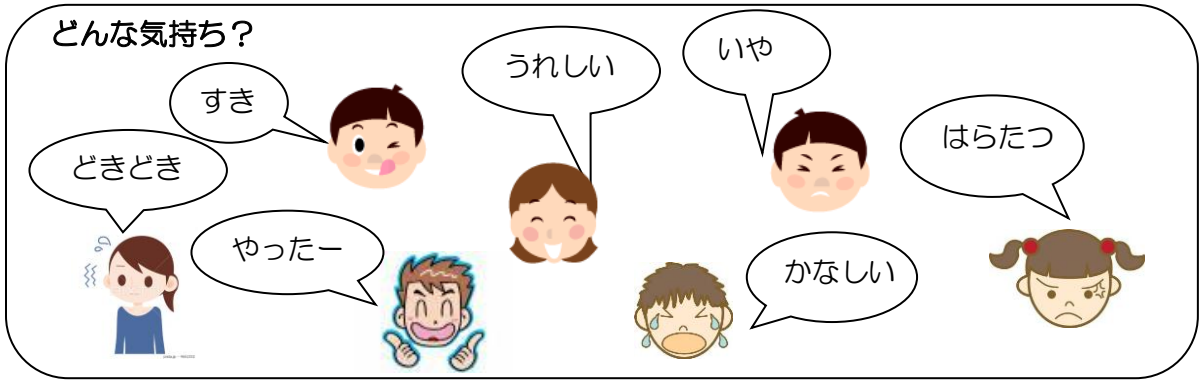
オレンジりぼんは、NPOや保護者の会など、様々な団体とつながり、活動しています。今回はＥＳ１０周年ということもあり、10数年前から、毎月１回定期的に関わっている「こころクラブ＊２０１１年度あゆみの会から独立」のダウン症児者さんに届けているプログラムの一部を紹介します。

♪オレンジりぼんのうた♪（始まりのうた）

① わたしたちはオレンジりぼん
　よろしくね～よろしくね～
　わたしは（　）（スタッフ全員自己紹介）
　よろしくね～よろしくね～

② 大切なあなたの名前はなあに？（〇〇です）
　声をあわせて、みんなで呼ぼう～
　〇〇さん、〇〇さん。

☆毎回、スタートはまずこの歌から♪もう１０年来、ワークショップの始まりに歌っています。自分の名前を紹介するとき、みんなに名前を呼ばれるとき、少し照れたりしながら、素敵な笑顔を見せてくれます。最後はポーズで決める人も…かけがえのない大切な自分を実感し、自分が主役のこの歌がみんな大好きです。



☆「どんな時にこんな気持ちになる？」
「最近、家や学校や作業所で、こんな気持ちになったことある？」
気持ちカードを机に並べてみんなで話をします。いろいろな気持ちがあること、どんな気持ちも自分の大切な気持ちであることを伝えています。
継続的にすることで、感情表現が少しずつできるようになり、今まで「怒り」の気持ちは悪い気持ちだと思っていた人たちが、少しずつ「怒り」の気持ちを感じてもいいと思えるように変化しています。

他にもこんなプログラムが・・・

＊いいところさがし・・・自分のいいところ、得意なこと、好きなことをスタッフと話をしながら、いいところシールをはったり、絵を描いたりします。ごほうびシールもみんなのお気に入りです。

＊アンガーマネジメント・・・イライラしたり、はらがたったりした気持ちを、人にあたったり、我慢したりせずにこの場で発散します。新聞を破る・音楽を聴く・紙風船をする・絵を描く・スタッフとお話をするなど…自分のやりたいことを自分で選んでします

☆オレンジりぼんは、事業発足から、たくさんのボランティアさん（学生・一般）にお手伝いしてもらっています。以下は、現在、参加してくれている学生ボランティアさんの感想です。

障害がある人たちへのサポートは障害児施設などで働くしかないと思っていましたが、このオレンジリボンのボランティアを通して様々な関わりがあるのだと知りました。仕事ではなく、障がいがある子どもたちと共に、これからもボランティアという形で付き合っていきたいです。作った自分ではなく、こらからもありのままの自分で、ありのまま素のままオレンジリボンのみんなや、これから出会うボランティア先の人たちと関わっていきたいです。　　（Ｂｙ　　みーちゃん）

今回、オレンジりぼんに参加させていただき本当にありがとうございます。
私は「きょうだい」の方と関わる機会を持たせていただきました。将来(進学)に対する不安や大学への先入観や、また、普段の楽しい会話を通して、私が話す事で少しでも不安を緩和していただけたら嬉しいです。これからも、オレンジりぼんで話す機会を持ち、心の癒やしになっていただけたら私は光栄に思います。この活動を通して自分も勉強になりました。ありがとうございます(^o^)/　　（Ｂｙ　　たるちゃん）

スタッフ募集

―こころクラブワークショップ―
日時：毎月第３日曜日（ＡＭ１０時～１２時）
　　第１部　１０：００～１０：５５
　　第２部　１１：００～１１：５５
場所：堺市立青少年の家
対象：第１部　ダウン症児者と、そのきょうだい
　　第２部　発達障がいのある子ども、おとな

By　ありちゃん

映画鑑賞

『かぞくのくに』　ヤン・ヨンヒ監督

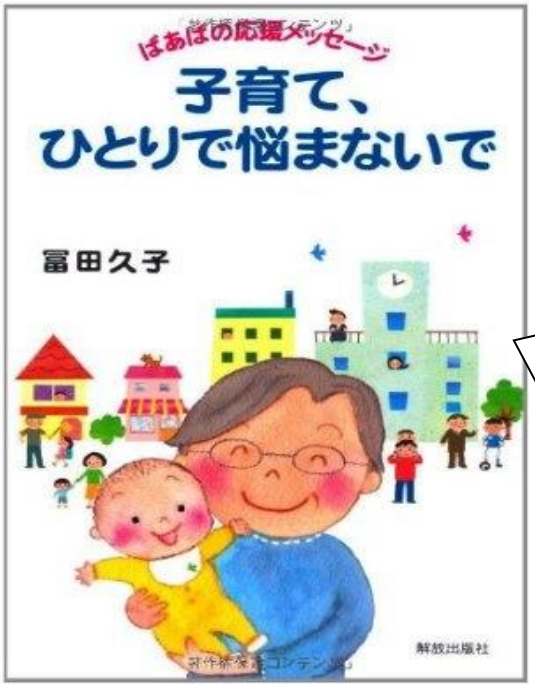
在日コリアン２世のヤン・ヨンヒ監督が、自らの体験≪北朝鮮の「帰国事業」により総連幹部の父の勧めで、日本と北朝鮮に別れて暮らしていた兄ソンホと家族との再会の数日≫を描いた作品。病気療養のためソンホが 25 年ぶりに日本へ戻り、家族は感激の再開を果たすが。異なる環境で育った２人が共に暮らすことで露呈する価値観の違いや、国家の使命を背負わされていた兄の言動に、妹リエは不信感を募らせる。２人の苦悩は計り知れない、言葉が少ないからこそ感情が・・静かな絶望が痛いほど伝わってくる。悲しみや怒りややるせなさや表現しきれないものが襲ってくる。日本とは違う思想を持った国の事だからどうしようもない・・では片づけられない問題だ。考え続けることで答えが出るとは思わないが、みなさんにも映画を観て感じて考えてほしい。

橋本　麻美

つぶやき

子どもと話していて、「なんだかうまく通じないなぁ～」とか、「何考えてるんだか・・・」とか、思うことがあります。夏に参加したセミナーで、『私たちおとなは「古い」のだから、若者を理解することはできない。』と講師の方が話されるのを聞いて、そうかぁ～、と思わず納得。私たちが相手にするのは、今のこの時代に存在している子どもです。私たちおとなが思春期・青春期を過ごした時代とは色々な点で違っています。私たちは「古い」（笑）ということを自覚し、『主観的に見ている枠組みを常に吟味することが必要。』なんだと、改めて実感！

たっしー



ばあばの応援メッセージ
「子育て、ひとりで悩まないで」

えんぱわめんと堺/ES の理事でもある冨田久子氏が自らの教師生活、子育て孫育て体験から感じた感動や学び、はたまた反省などなどを具体的に綴る心が優しくなれるエッセー

ぜひ皆さんに読んでもらいたい
秋の夜長お勧めの１冊です。

CAP 活動報告

2012 年 4 月～8 月まで

	子どもワークショップ									おとなワークショップ	
	小学校			幼稚園･保育所			中学校				
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	回数（教職員）	人数（教職員）
4 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 月	2	7	241	3	5	163	0	0	0	5(5)	17(17)
6 月	10	19	679	5	10	291	1	3	102	17(16)	110(50)
7 月	4	11	368	2	3	82	2	7	239	9(8)	63(33)
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(0)	65(0)
合計	16	37	1288	10	18	536	3	10	341	33（29）	255(100)

＊助成金報告＊　　ありがとうございました！

○　大阪府福祉基金地域福祉振興助成金

・・・障がい児・障がい児のきょうだい向けワークショップ＆講演会

○　公益財団法人　大阪コミュニティ財団

・・・子どもへの暴力防止（ＣＡＰ）プログラムおとなワークショップ、
子どもワークショップ

ＣＡＰ子どもワークショップ、おとなワークショップの
半額助成が決まりました！
地域の学校・園で取り組んで見ませんか？
関心のある方、団体は事務所まで連絡ください。
新規の学校・園・団体を優先させていただきます。

ES インフォメーション

＊男女共同参画学習グループ活動支援に参加決定！！！

日程：2013 年 1 月 26 日（土）　pm.1：00～
場所：サンスクエア堺Ａ棟２階研修室２
講師：神原文子さん（神戸学院大学教授）
内容：一人親家庭の現状と課題について
詳細はホームページ（http://www.npo-es.org/）
で確認してください。

会員募集～入会手続き～

正会員　5,000 円
（初年度のみ入会金 3,000 円）
賛助会員　1,000 円（入会金なし）

◎ 更新日は年２回（1 月 31 日・8月31日）です。
◎ 会員有効期間は１年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。
加入者名　特定非営利活動法人えんぱわめんと堺
口座番号　００９２０―９－１８２１１６

正 会 員　　３１名
賛助会員　　１０２名（１１６口）
２０１２年　８月

ＥＳの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願いいたします。

〒599-８２４４　堺市中区上之８０１番５号
特定非営利活動法人えんぱわめんと堺／ＥＳ
TEL：072-230-5588　FAX:072-230-5589
E-mail：empowerment@lily.ocn.ne.jp

事務局の２人です

編集後記

気がつくと、秋ですね～　しみじみと秋ですね。皆さんはいかがお過ごしでしょうか？
私はこの暑くもなく寒くもない少しゆる～い季節が好きです。（笑）
早いもので NPO 法人えんぱわめんと堺/ES 設立から１０周年を迎えることが出来ました。
しか～し子どもたちを取り巻く環境は、決して明るいものとは言いがたい悲しいニュースが後を絶ちません。だからこそ、こどもの声に耳を傾け寄り添えるおとなは必要ですよね。
子どももおとなも大切にされる社会が来るように。出来ることからひとつずつ・・・

ぽんちゃん